

《担当者名》教授 / 飯塚 健治  
 教授 / 遠藤 泰 教授 / 泉 剛 教授 / 柳川 芳毅 准教授 / 大橋 敦子 准教授 / 町田 拓自

### 【概要】

臨床の様々な場面において、画像情報が果たす役割はますます増加し、その内容も極めて多様化している。また画像情報の進歩は、疾患の診断、治療、予後の判定など患者に多くの福音をもたらした。本講では、代表的な8疾患を中心に、日常頻繁に使用されている画像検査の観点から、その臨床的意義並びに基本的な考え方などについて学ぶとともに、一連の疾患診断プロセスと病態との関係を総合的に学修する。

### 【学修目標】

日常良く遭遇する代表的な疾患について、診断に至る過程で使用される画像診断を中心に学修し、その病因・病態を併せて理解し、薬物治療を行うに当たって必要な理論的根拠を説明できる。

### 【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	血液・造血器系関連疾患 資料を配付する。	血液・造血器系関連疾患の診断に用いられる末梢及び骨髄駆中の血液像の特徴を列挙し、病態および治療方針について説明できる。  《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 E2-(3)-	町田 拓自
2	悪性腫瘍(1) 資料を配付する。	悪性腫瘍の診断に用いられる画像情報を列挙し、病態および治療方針について説明できる。  《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 E2-(7)-	遠藤 泰
3	悪性腫瘍(2) 資料を配付する。	悪性腫瘍の診断に用いられる画像情報を列挙し、病態および治療方針について説明できる。  《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 E2-(7)-	遠藤 泰
4	高血圧症 教科書1: p30~51, p374~388 資料を配付する。	二三次性を含む様々な高血圧について、診断に用いられる画像診断を列挙するとともに、発生機序や病態並びに治療方針を説明できる。  《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 E2-(3)- -4	飯塚 健治
5	心疾患 教科書1: p280~371, p390~394 資料を配付する。	心肥大、心拡大、心筋症、弁膜症、虚血性心疾患および心不全などについて、診断に用いられる画像診断を列挙するとともに、発生機序や病態並びに治療方針を説明できる。  《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 E2-(3)- -1,2,3,5	飯塚 健治
6	代謝性疾患 資料を配付する。	代謝性疾患の診断に用いられる画像情報を列挙し、病態および治療方針について説明できる。  《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 E2-(5)-	大橋 敦子
7	脳神経疾患	脳血管障害、脳外傷、脳腫瘍の画像所見を列挙するとともに、病態および治療方針を説明できる。  《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 E2-(1)- -8	泉 剛

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
8	認知症	認知症をきたす疾患の画像所見を列挙するとともに、病態および治療方針を説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 E2-(1)- -10	泉 剛
9	免疫・アレルギー疾患  教科書5:p2 ~ 144 資料配布	免疫・アレルギー疾患の診断に用いられる画像情報を列挙し、病態および治療方針について説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 E2-(2)-	柳川 芳毅
10	感染症  教科書5:p146 ~ 374 資料配布	感染症の診断に用いられる画像情報を列挙し、病態および治療方針について説明できる。 《関連するモデルコアカリキュラムの到達目標》 E2-(7)- ~	柳川 芳毅

#### 【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

#### 【評価方法】

期末定期試験（100%）として合否の判定を行う。

#### 【教科書】

- 1 「薬物治療学 改訂8版」 南山堂
- 2 「薬がみえる」 vol.1 Medic Media
- 3 「薬がみえる」 vol.2 Medic Media
- 4 「薬がみえる」 vol.3 Medic Media
- 5 「病気がみえる」 vol.6 Medic Media

#### 【参考書】

- 「クイックマスター病理学 新訂版」 堤 寛 サイオ出版
- 「疾患と治療薬-医師・薬剤師のためのマニュアル」 南江堂
- 「疾病的病態と薬物治療」 廣川書店
- 「病気がみえる」 Medic Media
- 「血液形態アトラス」 医学書院

#### 【備考】

必要に応じて講義プリントを配布する。

#### 【学修の準備】

本講義は、「薬物療法学 ~」で学修した内容に加えて、代表的な8疾患を網羅しており、学習範囲が多岐に及ぶため、疑問点を含めて講義内容のしっかりした理解に努めること。

当日の授業範囲を予習し、あらかじめ疑問点等を把握しておくこと（50分）。

授業終了時に練習問題等を課した場合は、次の授業までに解答しておくこと（50分）。

復習として講義終了後早期に資料などをもとに内容を再確認するとともに（50分）、日常において専門用語の内容や意味についてあらかじめ理解しておくこと（20分）。

#### 【関連するモデルコアカリキュラムの到達目標】

- E1 薬の作用と体の変化
- (2) 身体の病的変化を知る
  - 【 症候】
  - 【 病態・臨床検査】
- E2 薬理・病態・薬物治療

- (1) 神経系の疾患と薬
  - 【 中枢神経系の疾患の薬、病態、治療】 -3~10
- (2) 免疫・炎症・アレルギーおよび骨・関節の疾患と薬
  - 【 免疫・炎症・アレルギー疾患の薬、病態、治療】 -1,3,5,8
  - 【 骨・関節・カルシウム代謝疾患の薬、病態、治療】 -1~4
- (3) 循環器系・血液系・造血器系・泌尿器系・生殖器系の疾患と薬
  - 【 循環器系疾患の薬、病態、治療】 -1~5
  - 【 血液・造血器系疾患の薬、病態、治療】 -1~5
  - 【 泌尿器系・生殖器系疾患の薬、病態、治療】 -2~8
- (4) 呼吸器系・消化器系の疾患と薬
  - 【 呼吸器系疾患の薬、病態、治療】 -1~3
  - 【 消化器系疾患の薬、病態、治療】 -1~8
- (5) 代謝系・内分泌系の疾患と薬
  - 【 代謝系疾患の薬、病態、治療】 -1~3
  - 【 内分泌系疾患の薬、病態、治療】 -1~5
- (6) 感覚器・皮膚の疾患と薬
  - 【 眼疾患の薬、病態、治療】 -1~3
  - 【 耳鼻咽喉疾患の薬、病態、治療】 -1,2
  - 【 皮膚疾患の薬、病態、治療】 -1~4
- (7) 病原微生物(感染症)・悪性新生物(がん)と薬
  - 【 細菌感染症の薬、病態、治療】 -2,7
  - 【 ウィルス感染症およびブリオン病の薬、病態、治療】 -3,5
  - 【 真菌感染症の薬、病態、治療】 -2
  - 【 原虫・寄生虫感染症の薬、病態、治療】 -2
  - 【 悪性腫瘍】 -1~3
  - 【 悪性腫瘍の薬、病態、治療】 -1~13

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

- 2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。
- 3. 多職種が連携する医療チームに積極的に参画し、地域および国際視野を持つ薬剤師としてふさわしい情報収集・評価・提供能力を有する。

【実務経験】

飯塚 健治(医師)、遠藤 泰(薬剤師)、泉 剛(医師)、柳川 芳毅(製薬企業において創薬研究に従事)、大橋 敦子(獣医師)、町田 拓自(薬剤師)

【実務経験を活かした教育内容】

医療機関での医師、獣医師、薬剤師としての実務経験や、創薬研究に関する知識をもとに、画像情報を用いた様々な疾患の診断、病状把握の実際についての講義を行う。